

## 【注意事項】

- 1 オーダー用紙の提出について、1回戦は団体戦受付時（予定は13:30、会場でアナウンスします）に、2回戦以降は対戦校が決まり次第すぐに本部に提出してください。
- 2 プログラムに掲載されている試合開始予定時刻はあくまで目安です。変更する場合がありますので、競技委員の指示に従ってください。
- 3 選手は試合の服装でコートに入り、試合前にトスを行ってください。  
団体戦では、ゼッケン（番号の小さい学校は赤、大きい学校は青）を背中につけてください。  
個人戦では、番号の小さい選手が赤リボンを背中につけてください。また、番号の小さい学校の選手は本部側のベンチを使用してください。ウォームアップは3分間とし、サービスから行ってください。
- 4 団体戦では、初戦はすべての対戦を行います。それ以外の試合は2ポイント先取とします。  
試合の途中であっても2ポイント先取が成立した時点、ポイントで打ち切りとします。  
初戦において勝敗が決定した後の試合は、対戦校同士の合意を得て選手を変更してもかまいません。  
なお、その際には、審判を通じて本部に連絡をしてください。
- 5 本大会は、コートレフェリーがコート内外で試合を観察します。コート外からの水等の差し入れは、コートレフェリーを通じて行ってください。
- 6 ハンドシグナルは補助動作であるので、コールによってのみプレーは中断されます。また、プレー中に他のコートからボールが転がってきた場合は、主審がプレーを中断します。プレーヤー自身でのプレーの中断はできません。
- 7 自然的体力消耗による痙攣等の身体的不調による試合の中断は認めません。なお、本大会は、医師・トレーナーが常駐しませんので、選手はメディカルタイムアウト（MTO）を要求できません。この問題に関する基本的な考え方は以下の通りです。  
(i)痙攣等の治療はできない。  
(ii)突発的な事故に関しては、レフェリーが判断する。コートレフェリーを通してレフェリーに連絡すること。  
(iii)監督は、選手の体調管理に責任を持って対処する。  
(iv)無理をさせず、選手の将来を考慮してレフェリーがリタイアを促す。  
実際には、次の手順で対応します。  
突発的怪我・体調不良を選手が主審に申し出る → 主審はコートレフェリーを呼ぶ  
→ コートレフェリーが状況を判断したうえでレフェリーを呼ぶ  
→ レフェリーが判断（出血等を伴う怪我の場合、本人による治療を認める場合もあるが、基本的にはリタイアを勧める）
- 8 インプレー中の落し物に関して(JTA テニスルールブック 2014 p 49)は、今大会では適用しません。
- 9 タオル等のコート後方（ベンチ外）への持ち込みは禁止します。
- 10 エンド交代時に、プレーヤーはスコアボードにゲームスコアを明示してください。
- 11 ベンチコーチはプレーヤーと同じ倫理規定が適用されます。判定に疑問があるとき、プレーヤー・ベンチコーチは理にかなった方法で、主審にたずねることはできますが、その返答には潔く従わなければなりません。また抗議によって判定が覆ることはありません。
- 12 団体戦におけるコーチングについては、選手はベンチコーチから、エンド交代時(タイブ레이크を除く)に、コーチングを受けてもかまいません。(個人戦におけるコーチングは禁止です)  
ただし、プレーヤー・ベンチコーチは、コート外の誰からもコーチングを受けることはできません。
- 13 団体戦では、第1ゲーム終了時に90秒以内の休憩を認める。ただし個人戦では第1ゲーム終了時の休憩は認めない。  
選手は20秒ルール、90秒ルールを厳守すること。
- 14 プレーヤーへの応援については、相手選手に対して誹謗・中傷・からかいなど妨害は絶対にしないでください。また、技術や戦術をアドバイスするような、「前に出ろ」、「ロブを使え」、「足を動かせ」などは、コーチングとして判断されますので、注意してください。
- 15 観戦・応援は、スタンドおよびコート後方のフェンス外で行ってください。ただし、インプレー中の応援・移動はご遠慮願います。また、部旗・応援旗の掲示をする場合は後方のフェンスのコート間に掲示して下さい。
- 16 開・閉会式における服装は、テニスウェアまたはウォームアップスーツとします。
- 17 競技に関する連絡事項は、本部前のオフィシャル・ボードに随時掲示します。